

令和7年度 第1回小平市図書館協議会要録

1 日 時 令和7年5月13日（火）午後2時から3時20分まで

2 会 場 中央図書館 2階会議室

3 出席者 委員：落合会長、伊藤副会長、神子委員、阿部委員、石井委員、平向委員、堀内委員、渡辺委員、内田委員、三田地委員、宮原委員 計11名（欠席1名）
事務局：足立地域学習担当部長、松本中央図書館長、吉崎（中央図書館長補佐兼庶務担当係長）、岡村（花小金井図書館長）、大竹（小川西町図書館長）、菅家（中央図書館サービス担当係長）、田中（中央図書館資料担当係長）、小林（中央図書館歴史公文書・調査担当係長）、坂本（津田図書館長）、計9名

4 傍 聴 なし

5 配付資料

- ・小平市図書館協議会委員名簿 (資料No.1)
- ・職員の人事異動について (資料No.2)
- ・令和7年度図書館協議会開催日程 (資料No.3)
- ・令和7年度小平市立図書館事業計画 (資料No.4)
- ・図書館行事等の報告と今後の予定について (資料No.5)
- ・令和6年度「市長への手紙・図書館への意見等」集計結果 (資料No.6)
- ・令和6年度 月別館別貸出資料数等について (資料No.7)

6 委員任命式

青木教育長より任命書の交付

7 教育長挨拶

図書館協議会は、今年度から新たな任期がスタートした。

本協議会は、図書館法で「図書館の運営に関し、館長の諮問に応ずるとともに、図書館の行う図書館奉仕につき、館長に対して意見を述べる機関」と位置付けられている。新委員の皆様には、お力添えをいただきたい。

公立図書館の役割は常に進化している。図書館は、本や雑誌などを提供する伝統的な業務のほか、市民生活に不可欠な社会インフラを構築する上で重要な役割を担っている。デジタル化が進み、電子図書館の導入など、図書館を取り巻く状況も大きく変化した。市民に愛される図書館づくりを進めるため、任期の2年、貴重なご意見をお願いしたい。

前任期の委員からの提言も拝見した。多くの意見をいただき本当にありがたく思う。それらを参考に、より良い図書館づくりを目指していきたい。

＜教育長退席＞

8 委員及び職員の紹介

自己紹介

9 職員の人事異動

4月1日付で、図書館は7名の異動があった。(資料No. 2)

10 会長及び副会長の選任

会長に落合美代委員を選任。副会長に伊藤規子委員を選任。

11 議事

(1) 報告事項

①令和7年度図書館協議会開催日程について(資料No.3)

事務局：令和7年度は年6回の開催を予定している。

②令和7年度小平市立図書館事業計画について(資料No.4)

事務局：前回の本協議会にて承認したもの。図書館ではこの計画に基づき事業を実施していく。

③図書館運営状況について(資料No.5)

事務局：資料には、前回の図書館協議会(令和7年3月18日)から次回協議会の開催日までの予定を記載している。

- ・3月22日、ぬいぐるみのおとまり会を中央図書館で実施した。こどもがぬいぐるみと一緒におはなし会に参加した後、ぬいぐるみは図書館にお泊りする(預ける)という企画。定員10名に対し30名近くの応募があり、人気のイベントである。
- ・3月26日、ハンディキャップサービス交流会を実施した。ボランティアや関係団体に声かけし、各図書館のハンディキャップサービスの実施状況報告や、意見交換を行なった。
- ・3月27日、春休み企画として仲町図書館では太神楽師による江戸の曲芸を実施した。参加者からは、こどもが伝統芸能に触れる良い機会となったとの感想があった。
- ・新年度に入り、4月1日から5月21日までの期間は毎年「小平こども読書月間」として各図書館でイベントや展示等を行っている。この期間に本を5冊以上読み、読書ノートを書いたこどもには、表彰状とともに折り紙の作品等のプレゼントを渡している。
- ・4月12日、「布の絵本・遊具で遊びましょう」の企画では、団体「布の遊具ひまわり」から寄贈された布の絵本や遊具を実際に展示し、来館者に触れてもらい、障がいのある人への理解につなげた。作品は読書月間中、中央図書館で展示している。
- ・4月29日と5月17日開催のおはなし工作会は、おはなし会と工作を同時に行なう企画で、中央図書館で実施した。

- ・学校司書関連では、4月4日に新任研修、4月16日に全体研修を行った。
- ・本年度は小平市図書館が開館して50年目の節目であり、記念イベントとして、4月19日から7月中旬まで、中央図書館で開館当時の様子の写真を展示する。また、昭和50年の開館日と同じ5月18日（日）には、講師に元小平市中央図書館長の蛭田廣一さんを迎え、開館初期からの事業展開とデジタル社会における図書館の役割について講演いただく予定である。当日は中央図書館視聴覚室で午後1時30分開場、2時開演、先着80名の方が参加できる。
- ・5月18日、仲町図書館では、こどもライブラリーコンサートを行う。ピアノと声楽で、大人もこどもも歌と楽器、音楽が楽しめる好評のイベントである。
- ・5月29日と6月5日は、絵本の読み聞かせ実践講座を実施予定。読み聞かせを現在おこなっている方、これからおこなうという方に、本の選び方から読む実践までを学べる講座となっており、毎年実施している。
- ・小・中学校からは新年度に入ってブックトークの依頼も少しずつ始まっており、5月下旬から順次実施していく。

④令和6年度「市長への手紙・図書館への意見等」集計結果について（資料No.6）

事務局：令和6年度の件数は55件であった。受付媒体は多い順に電子メール、市長への手紙、図書館への私の意見であった。意見にメールアドレスや住所の記載がある場合は、図書館から回答をしている。

⑥令和6年度 月別館別貸出資料数等について（資料No.7）

事務局：資料No.7-1は、月別館別貸出資料数の令和6年度上半期分を掲載している。一番右の欄にある「その他」とは、館内OPACやWeb OPACで利用者ご自身で貸出期間の延長手続きを行った件数である。貸出資料数は、7月、8月の夏休み時期がピークとなっている。

資料No.7-2、下半期分と年度計の特徴として、貸出資料数は、年度末の3月が一番多い。令和5年度に照明LED化工事等に伴い、他館より長めに休館期間を設けた中央図書館や仲町図書館が前年度比で増加、また、人口増加傾向が続く東部地区の花小金井図書館も増加しているが、他の館では減少している。

資料No.7-3では、上段に新規の登録者数、下段に貸出者数を掲載している。特徴として、登録者数は、夏休み時期の7月と8月が多く。貸出者数は、8月と令和7年3月が多くなった。これについても、令和5年度に照明LED化工事等に伴い他館より長期間休館した中央図書館や仲町図書館、人口増加傾向が続く東部地区の花小金井図書館が前年度比で増加した。

資料No.7-4は、上段に広域利用の貸出者数、下段に貸出資料数を掲載している。広域利用市別貸出利用の特徴として、東村山市からの利用が最も多く、次いで西東京市、東久留米市、国分寺市と続いている。

会長：（1）の報告事項について、質問等はあるか。

- 委員：ブックトークとはどのような事業で、何校ぐらいで実施したのか。
- 事務局：各学校から図書館が依頼を受け、児童サービス担当の職員が2名程度で学校に伺って実施している。テーマに沿った複数の本を順に紹介し、クイズ形式など学年に応じた工夫も加えながら、こどもたちの読書意欲を促す活動である。その場での貸出もできるよう、本を用意している。令和5年度の実績では小学校6校、中学校1校で計45回実施した。
- 委員：3月22日に開催したハンディキャップサービス交流会について。今回、参加者がとても少なく感じた。過去には、当事者のほか関係団体の方も大勢参加していた。今後開催する際には、図書館から積極的に声かけをしてほしい。
- 委員：自身はハンディキャップサービス交流会に参加したが、参加者が少なく残念に感じた。もう少し広報に力を入れてほしい。
- 会長：図書館の広報については、従前からの課題である。
- 委員：ホームページでの広報やチラシの配架だけでは、集客は難しい。それぞれ関係者に一声かけると良い。
- 会長：本年度は図書館開館50周年の節目であるので、関係者だけでなく、多くの人に伝わる広報としてほしい。行事だけではなく、図書館システム変更などの情報も同様である。
- 委員：校長会でも図書館のアピールをし、活性化していきたい。
- 委員：統計における貸出資料数や貸出者数の結果について。この数値を小平市としてどのように捉えているか。
- 事務局：前年度比で減少している現状については、良い状況ではないと捉えている。
- 委員：それに対しての対策や、新たな取組みはあるか。
- 事務局：利用者の要望に応えられる資料の充実も対策の一つとして行なっていきたい。
- 委員：資料を充実するだけでは、なかなか利用者は増えないだろう。広報でどの年齢層に刺さるのか等、戦略を立てると良いだろう。地域との連携も効果的ではないだろうか。
- 事務局：来館者の減少傾向は良いことではないが、一方で、少子高齢化の中、飛躍的に人数を伸ばすことは難しいと捉えている。地域連携、電子図書館の導入、居場所づくり、イベントの実施といった利用者を増やす取り組みのほかに、利用者にとって使いやすい図書館にする視点も大事にしながら、できることを委員皆様と一緒に考えていきたい。
- 委員：貸出資料数などの統計を見ると、例えば小川西町図書館と花小金井図書館では花小金井図書館の利用（貸出資料数、貸出者数）が多い。これは、館の規模や蔵書数に比例しているのか。理由を教えてほしい。
- 事務局：花小金井図書館は、駅前という立地条件の良さに加え、東部出張所や集会施設との複合施設であること、さらには大規模マンションの建設によって近年は市東部地区の人口増加が著しく、子育て世代のファミリー層の需要が非常に多い。そのため、花小金井図書館の貸出資料数は中央図書館に次ぐ成果を上げているが、館の規模や蔵書数の多さと、貸出資料数は比例していない。小川西町図書館の蔵書数は約12万冊、花小金井図書館は約10万冊である。また花小金井図書館では、近隣小学校の図書館見学の際、教科書に掲載している題材を取り上げるといった工夫も行ない、貸出資料や貸出者数の増加に繋げている。
- 会長：小川西町図書館が移転し、来春以降に開館すれば、駅からの利便性も良くなり利用者が増

えることが期待できるだろう。

委員：学校では、公民館で開催するイベント情報を配布することがある。図書館の広報という点では、学校メールで配信できることもあるだろう。学校も協力していきたい。

事務局：夏休みおすすめ本リストなどの大量の配付物は、電子配信ができると大変ありがたい。

会長：学校は普段から配布物が多くて大変だと思う。図書館でのイベント等も、効果的かつ確実に伝えられると望ましい。

委員：利用者の年齢層について。こどもの読書離れと言われるが、実際には、大人や高齢者の読書離れも進んでいるのではないか。大人世代に向けて図書館の魅力を伝えられる広報戦略も立ててほしいと願っている。

会長：委員から様々な課題が出た。これから本協議会で話し合いを深めていきたい。

委員：市長への手紙について、どのように対応しているか。特に「図書館スタッフと語りあう場を設けてほしい。」の詳しい内容を教えてほしい。

事務局：図書館で本を借りるだけではなく、図書館職員がどのような経緯で展示を企画したり、おすすめ本を考えたりしているのか、普段聴くことのできない図書館職員の思いなどを交流を通じて知りたい、という意見であった。意見のあった図書館では、繁忙のため利用者からのレファレンスに十分な時間が取れない状況である点も課題だと捉えている。

委員：このような意見は、該当する館だけでなく他館と共有されているか。本の貸出だけではない動機付けによって図書館の利用が促される好事例だと思い、他館でも実践すべきとも考えるが、いかがか。

事務局：会議等で共有はするものの、他館での実践については各館の地域性や特徴など、様々な状況がある。しかし、利用者に喜んでもらえる図書館となるよう、アイデアの共有や事例の収集にはこれからも努めていきたい。

委員：図書館職員の日々の苦勞など、普段は市民から見えない部分も少し見せることで魅力の発信に繋がるのではないか。図書館という場所は、人がいるにも関わらず静けさもあって、無理にしゃべらなくていい空間。かしこまらずに人が出て来やすい場所のような気がしている。小平市が先進事例として何かやれるといいなと思う。

委員：図書館のバックヤードを見せる試みは、イベントとしても面白い。普段は裏方である職員がアンバサダーになるのも良いと思う。自身は以前、企業で「東京ブックフェア」というイベントに携わったことがある。当時、開催場所がものづくりのまち、蔵前であったことから、缶バッチの製作や珈琲の焙煎とコラボレーションし、イベント性を前面に打ち出しながら、編集者と読者が直接会話をする機会を意図的に設けていた。盛況であったし、企業側にも読者にとっても、非常に良い相乗効果が出たと思っている。

会長：例年、夏休みに家族向けの日一図書館員体験を行なっている。回数や対象人数が増やせるか等、工夫をお願いしたい。

令和7年度は、様々な新しい取組みが始まる。小川駅西口に建設される27階建て施設の4階、5階に小川西町図書館が移転するが、面積は現状より小さく、また所蔵資料数も減少し、運営は指定管理になる予定。これからも本協議会で情報共有をし、見守っていきたい。また他にも、図書館システムの入れ替え、ホームページの更新、電子図書館の導入

も予定されている。随時、進捗状況の報告をお願いしたい。さらに、学校図書館の支援の充実も期待している。小平市図書館では、従前より学校図書館の支援を行なっているが、まだまだ課題も多い。本協議会で話し合っていきたい。

(2) 協議事項

なし

(3) その他

前期委員による提言書「変化する図書館」については、真摯に受け止め、今後も国、都道府県、他市等の動向や情報収集に努め、また、小平市教育振興基本計画及び第2期中期実行プランに基づき、取り組んでまいりたい。提言は、今後所定の手続き後、図書館ホームページに掲載する予定である。

(次回、令和7年7月3日(木) 午後2時から開催予定)